

# 病害虫発生予察注意報（第3号）

令和3年6月10日  
神奈川県農業技術センター

病害虫名：ハスモンヨトウ

作物名：野菜類、果樹類、花き類

1 発生地域：県全域

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- (1) 当センター病害虫防除部が三浦市と横浜市、伊勢原市に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、全ての地点で5月第3半旬以降に急増し、平年値を大幅に上回っている（図1～3）。5月第4半旬～第6半旬の雄成虫誘殺数は、三浦市と横浜市では過去30年間で最も多く、伊勢原市では調査開始以来13年間で最も多い。
- (2) 県予察ほ（平塚市上吉沢、三浦市下宮田）のフェロモントラップへの雄成虫誘殺数も、5月第3半旬以降急増し、平年を大幅に上回っている（データ省略）。
- (3) 気象庁が6月3日に発表した向こう1ヶ月の気象予報では、気温は平年より高いと予想され、次世代幼虫の発生に好適な条件が続くと予想される。

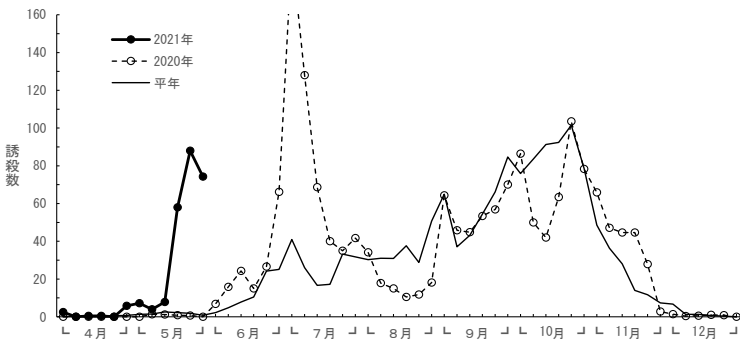


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ雄成虫誘殺数の推移（三浦市）

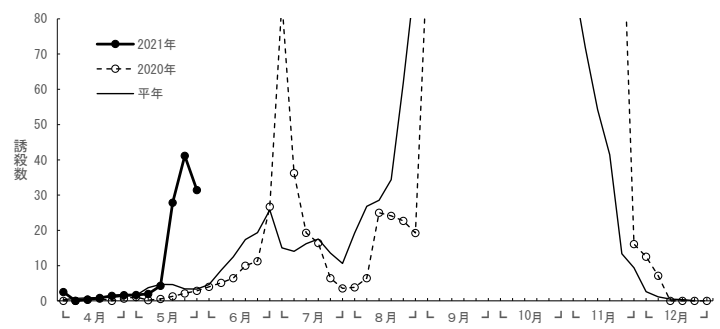


図2 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ雄成虫誘殺数の推移（横浜市）

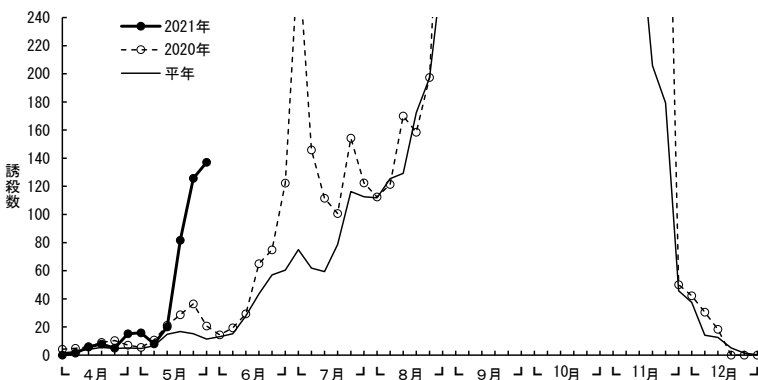


図3 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ雄成虫誘殺数の推移（伊勢原市）



写真 ハスモンヨトウ若齢幼虫（飼育個体）による食害の様子

## 4 被害と生態

非常に広食性で多くの作物を加害する。1～2 齢幼虫は集団で葉裏から表皮を残して食害するが(写真)、3 齢幼虫以降は分散し、食害量も増加するため穴あきの被害となる。トマトやナスでは果実も食害する。高温、乾燥条件で多発する。

## 5 防除対策

- (1) 中齢以降の幼虫には薬剤の防除効果が低い場合が多いため、体長1cm くらいの若齢期を中心に薬剤防除を行う。各種作物のハスモンヨトウに適用のある防除薬剤例を表に示した。なお、農薬使用の際は必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守すること。

表 防除薬剤例

薬剤名	IRAC コード	農薬登録の有無							
		トマト	ナス	ピーマン	イチゴ	エダマメ	カンショ	サトイモ	花き類・ 観葉植物
アディオン乳剤	3A					○ <sup>※1※2</sup>		○	○ <sup>※1</sup>
ディアナSC	5	○	○	○	○	○ <sup>※3</sup>	○	○	
アフーム乳剤	6		○		○	○	○		○ <sup>※1</sup>
アニキ乳剤	6	○	○	○	○	○	○	○	
コテツフロアブル	13		○		○		○	○	○ <sup>※1</sup>
マッチ乳剤	15	○			○	○	○		○
カウンター乳剤	15	○	○		○				
カスケード乳剤	15	○			○	○	○		
ファルコンフロアブル	18	○	○	○	○		○		
マトリックフロアブル	18		○		○	○	○	○	
トルネードエースDF	22A	○	○		○	○	○	○	
プレバソフロアブル5	28		○	○	○	○	○	○	
フェニックス顆粒水和剤	28	○	○		○	○	○	○	○
グレーシア乳剤	30	○	○		○	○	○	○	
プレオフロアブル	UN	○	○		○	○ <sup>※3</sup>	○	○	○
BT 剤	11A	野菜類でハスモンヨトウに適用があるものは、エコマスターBT、サブ リナフロアブル(ハクサイ、エゴマ(葉)を除く)、ゼンターリ顆粒水 和剤(ハクサイを除く)、フローバックDF、バシレックス水和剤等							

※1) ヨトウムシ類に適用有り。

※2) 豆類(未成熟、ただしサヤインゲン、サヤエンドウ、未成熟ソラマメを除く)に適用有り。

※3) 豆類(未成熟)に適用有り。

- (2) 若齢幼虫は葉裏に群生していることが多いため、薬剤を散布する際は薬液が葉裏や株元にも届くよう丁寧に行う。
- (3) 抵抗性を発達させないために、同じ系統の薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (4) 施設栽培では開口部を防虫ネットで覆い、成虫の侵入を防ぐ。

神奈川県農業技術センター  
 病害虫防除部  
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
 TEL 0463-58-0333  
 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/#450002/>